

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	公益財団法人神奈川芸術文化財団	
施設名	神奈川県立音楽堂	
内定額	25,780	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		293	283
年間事業本数（※1）	主催事業	9	10
	公演事業	3	3
	（内、本助成対象事業本数）	0	3
	人材養成事業	1	2
	（内、本助成対象事業本数）	0	2
	普及啓発事業	3	3
	（内、本助成対象事業本数）	0	3
	その他 内容： 記入してください	2	2
	ホールごとの貸館日数	186	167
	ホール名：ホール 座席数：1054	186	167
貸館日数	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	6,117	7,536
	公演事業	3,847	4,648
	人材養成事業	284	247
	普及啓発事業	1,785	1,849
	その他 内容： 建築見学会等	201	792
	貸館事業入場者・参加者数	86,149	81,810
	その他 内容： 共催・提携事業	19,396	20,107
	計	111,662	109,453
施設の利用率(%)		85.0%	86.9%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設(美術館、図書館等)のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合(※4)	その他
令和5年度	主催公演(※1)	9	11	6,117	78.1%	0	6	0	0	0	0	3
	共催・提携公演(※2)	28	38	19,396	46.5%	0	23	2	2	0	0	1
	貸館公演(※3)	185	185	86,149	68.5%	0	143	5	1	12	0	48
	計	222	234	111,662								
令和6年度	主催公演(※1)	10	12	7,536	76.1%	0	7	0	0	0	0	3
	共催・提携公演(※2)	26	37	20,107	48.0%	0	22	2	1	0	0	1
	貸館公演(※3)	188	188	81,810	68.0%	0	121	1	0	13	0	53
	計	224	237	109,453								

※1 名義主催は除きます。

※2 名義共催を含みます。

※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。

※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業番号	事業名	入場者数		入場者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
公-01	音楽堂室内オペラ・プロジェクト 濱田芳通 & アントネッロ モンテヴェルディ オペラ『オルフェオ』新制作	目標値	1,580	89.3%	アンケートによる顧客満足度調査において「大変満足」または「どちらかといえば満足」と回答	80%以上	97.2%	顧客アンケートによる満足度が97.2%、そのほか8件の批評が掲載された。また、メディアへの露出においても、目標はおおむね達成できた。批評においては、「これほど刺激的な音楽はそう遭遇できるものではない。現代人が勝手に決めつけたイメージを覆す、まさに快演であった」(読売新聞)等の評価を得ることができ、一定の企画性・創造性をもった公演となったと考える。		
		実績値	1,644	92.9%	専門家による批評、外部の評価委員による評価	3件以上	批評8件(朝日新聞、読売新聞、日経新聞)、ほか			
					メディアへの露出	5件以上	19件			
公-02	音楽堂ヘリテージ・コンサート	目標値	2,580	90.9%	アンケートによる顧客満足度調査において「大変満足」または「どちらかといえば満足」と回答	80%以上	96.3%	顧客アンケートによる満足度が96.3%、そのほか6件の批評が掲載された。また、メディアへの露出においても、目標はおおむね達成できた。批評においては、「世界第一線のアンサンブルに圧倒される凄みのある公演」(ベルチャ・エペーヌ弦楽四重奏団／音楽現代)等の評価を得ることができ、一定の企画性・創造性をもった公演となったと考える。		
		実績値	2,075	73.1%	専門家による批評、外部の評価委員による評価	3件以上	批評6件(音楽の友、モーストリークラシック、音楽現代、ほか)、外部評価1件			
					メディアへの露出	5件以上	15件			
公-03	神奈川県立音楽堂 開館70周年記念ガラコンサート 紅葉坂の四季	目標値	860	90.9%	アンケートによる顧客満足度調査において「大変満足」または「どちらかといえば満足」と回答	80%以上	93.7%	顧客アンケートによる満足度が93.7%、そのほか3件の批評が掲載された。また、メディアへの露出においても、目標はおおむね達成できた。外部評価においては、「開館70周年記念週間のトリを飾るのにふさわしい公演」との評価を得ることができ、一定の企画性・創造性をもった公演となったと考える。		
		実績値	654	69.1%	専門家による批評、外部の評価委員による評価	3件以上	批評3件(音楽の友、モーストリークラシック、音楽現代)外部評価1件			
					メディアへの露出	5件以上	18件			
		目標値								
		実績値								
		目標値								
		実績値								
		目標値								
		実績値								
		目標値								
		実績値								
		目標値								
		実績値								

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業	①観客満足度 ②事業専門評価委員の評価 ③マスコミ等からの注目度	①全公演事業において、アンケートによる満足度調査で80%以上の人が「大変良かった」または「良かった」と回答する。 ②財団外部評価委員らによる評価シートで開催意義やプログラム内容に高い評価を得る。 ③公演前の注目公演としての記事や、公演後の批評等、メディアへの露出で10件以上を獲得する。	①全公演事業において、アンケートによる満足度調査で96.5%以上の人が「大変良かった」または「良かった」と回答した。 ②外部評価2件。いずれも高い評価を得ることができた。 ③記事、批評等、メディアへの露出の総計69件。	いずれの項目においても目標を達成することができた。 公演事業において、演奏の質もさることながら、音楽堂独自の構成を施していることが高い満足につながっていると考える。また新聞、専門誌、WEB媒体などに働きかけ、公演前の告知、公演後の批評やレポートなどを広く露出することができた。SNSなどもあわせて活用することで情報にスピード感が生まれ、音楽堂場の持つ制作力及び発信力を示し、創造性を打ち出すことができた。		
人材養成事業	①【人-01】企画公募の応募数【人-02】インターンへの応募数 ②参加者の事業終了後の反応	①【人-01】企画公募の応募数が10件を上回る。【人-02】インターンの応募数が10名を上回る ②事業終了後の参加者へのアンケートの結果、「大変良かった」または「良かった」を70%以上獲得する。	①【人-01】応募数16件。【人-02】応募数13名。 ②参加者アンケートの結果、「大変良かった」または「良かった」96.3%。	いずれの項目においても目標を達成することができた。 フィードバックにおいて有意義である旨の回答を得た一例として、以下のようなコメントが寄せられた。 ・普段全く触れない分野との出会いが多くあり、視野が大きく広がった。最近自分の専門分野に対して行き詰まりを感じていたので、視野が広がったことで新たな考えも生まれ、やってみたいことや選択肢が増えた。 ・インターンで様々な経験したことで、1つのイベントを見る際に、多方面からの視点で見られるようになった。 ・実際に公立ホール職員の話聞き、実際の業務内容、苦労していること、現場のリアルなどを知ること知見を深めることができた。		
普及啓発事業	①来場者数・参加者数 ②新規来館者数(【普-03】「先生のためのアウトリーチをのぞく」) ③受入先・参加者による評価(【普-03】「先生のためのアウトリーチ」)	①全事業において来場者数・参加者数が目標参加者数を達成する。 ②アンケート回答者の50%以上が「初めての来館」と回答 ③アンケートにて「また実施してもらいたい」「また参加したい」との回答が50%以上を獲得する。	①【普-01】909名【普-02】940【普-3】254名 いずれも目標参加者数を達成した。 ②「初めての来館」との回答50.8% ③「また実施してもらいたい」「また参加したい」との回答100%。	いずれの項目においても目標を達成することができた。 普及啓発事業はとくに芸術文化を新たに体験するきっかけとなるよう、音楽堂で事業が行われていることを広く知っていただくことが重要である。今後も広報や周知の方法を工夫し、多くの方に事業を知ってもらえるよう、引き続き取り組んでいく。		

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・公-01「オペラ『オルフェオ』」近年目覚ましい活躍を続け、国際的にも高い評価を得る濱田芳通&アントネッロと兵庫県立芸術文化センターとの共同制作であることに加え、我が国トップクラスの実演家、クリエイターが集結し初期バロックオペラの傑作が上演されるということで、全国的に大きな話題となった。兵庫公演、神奈川公演ともに躍動感に溢れる充実の内容となり、新聞・専門誌の批評でも軒並み高い評価を得、神奈川県という枠を超えて、広く我が国の舞台芸術振興に寄与することができた。オーデションにより新進気鋭のアーティストを積極的に起用し、今後の活動機会の向上にも寄与することができた。

・公-02「音楽堂ヘリテージ・コンサート」人類の至宝「ヘリテージ」として共有すべき名演奏を紹介する室内楽シリーズ。室内楽に最適な「木のホール」の音響特性を最大限に活かせる音色や個性を持つアーティストを選定し、招聘元との交渉により、「音楽堂ならではの」独自プログラムを実現することができた。

・公-03「開館70周年記念ガラコンサート『紅葉坂の四季』」音楽堂と縁の深い音楽家が集結し、音楽の歴史をプレイバックするようなプログラム構成は、聴衆にとっても強い印象を残したことがアンケートからも垣間見えた。神奈川県の出発点文化施設として、上質な音楽芸術の創造発信にこれからも継続して取り組む姿勢をアピールし、音楽堂の価値を再認識していただくとともに、地域における文化的機運の向上に寄与することができた。

・人-01「シリーズ「新しい視点」紅葉坂プロジェクト」公募企画者がホール下見や舞台技術や制作のスタッフとの打ち合わせを繰り返し企画内容をブラッシュアップし、企画コンセプトや舞台表現としてクオリティの高い公演を実施することができた。公募、採択、ワークインプログレス、公演のサイクルを繰り返す行うことで、音楽堂の地域の文化拠点としての機能向上を図ることができた。

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	評価	対応・追加情報など
・外国人の関心層・来場者数	特に【普-02】せかいはいともだち！にて、申込者のうち海外にルーツのある方が40%を超える。	【普-02】「せかいはいともだち！」申込者数1,212名のうち海外にルーツのある方からの申込50名(4.1%)	目標値には達しなかったが、多言語でのイベント告知、多言語サポーターの会場配置、近隣公立小学校への案内などを行うことにより、多くの在日外国人の方にご来場いただくことができた。今後もイベント内容や鑑賞サポートを充実させることにより、更に多くの方の来場を促したい。			

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・【普-02】〈子ども編〉「せかいはいともだち！」音楽と絵本によるコンサート、沖縄の伝統楽器による民謡のコンサートのほか、カンボジアのクメールダンス、ブラジルのカポエイラによる演舞などを行った。英語、中国語、韓国語、ポルトガル語の言語サポーターを依頼し、近隣公立小学校への多言語による案内、会場でのアナウンス、世界の遊びの紹介にも取り組んだ。音楽堂の近隣は特に在日外国人の方が多い地域であるが、近隣の公立文化施設との協働プロジェクト「紅葉ヶ丘まいらん」の協力を得て、より広い範囲に周知することができた。

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
①子ども対象事業の参加者数 ②アンケートによる貸館利用者の満足度調査で「大変満足」または「どちらかといえば満足」と回答した人の割合 ③施設利用率	①目標の参加者数を達成する ②80%以上 ③80%以上	①【普-02】「せかいはともだち！」参加者数588名(申込者数1,212名)【普-03】「公開リハーサル」参加者数125名/60名/71名 目標の参加者数を達成した。 ②93.1% ③86.9%	地域の文化拠点として、子どもとその家族に向けて、多文化共生をテーマにした施設開放デー【普-02】「せかいはともだち！」と小学生～高校生を対象に地元のプロオーケストラである神奈川フィルハーモニー管弦楽団の【普-03】公開リハーサルを実施することで、芸術文化を通じた教育や社会課題への取組を行っている。 また、ホール利用サービス(貸館)においても、引き続き県民の様々な文化芸術活動を支援できるよう、利用者サービスの向上に努めていく。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・【普-01】「メサイア」 公募による県民合唱と県下の高校生、総勢120名が合唱に参加し、およそ3か月にわたるリハーサルの中で音楽的な向上のみならず世代間の交流を行い、相互に刺激を与えることができた。プロとアマチュアが力を合わせた音楽創造の機会を提供するとともに、県民の創造活動拠点としての音楽堂へのエンゲージメントを高めることに成功した。

・【普-02】「子どもと大人の音楽堂」 2種類の施設開放イベントを実施。ホールを使用したコンサートプログラムに加え、ホワイエでのプログラムで、総合的に「建物、場としての音楽堂の豊かさ、驚き」を体感してもらい、音楽堂をより身近に感じてもらうことができた。

・【普-03】「公開リハーサル」 地元唯一のプロオーケストラ・神奈川フィルハーモニー管弦楽団との連携により、次代を担う子どもたちに向けて、貴重な音楽づくりの過程を公開し、音楽芸術への興味関心を喚起することで、地域に開かれ、音楽文化の振興をはかる公立文化施設としての役割を追求した。

・【普-03】「子どものためのアウトリーチ」 県下で意欲的活動を展開している教育研究会等の協力を得て、県内全域でブロックごとに、一流の実演家、作曲家等と先生方を結びつけるワークショップを実施、神奈川県文化芸術のハブとしての役割を果たした。特定の学校ではなく地域に働きかけていくという意図で、同地域を繰り返し訪れ、現場のニーズ、総括のヒアリングを丁寧に行うことで、発展的なアウトリーチのプログラムを中長期的に実施していきたい。

・【人-02】公演制作、広報の過程を実地で体験したほか、基礎的知識として施設の歴史と成り立ち、国内や地域における位置づけ、主催事業の企画制作手法等について、過去のプログラムや写真等の資料を用いてレクチャーを行い、公立文化施設の特性と意義について学んだ。次代を担う若者が実践的な学びを得ると同時に、将来的に地域文化の担い手として成長するよう、継続してインターンシップに取り組んでいる。

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①若年層の利用者数(U25／高校生以下無料チケット販売数) ②主催事業託児サービス利用者数 ③点字・拡大・白黒反転プログラムの配布数	①年間をとおし、U25は100枚以上、高校生以下無料は150枚以上 ②年間8組以上 ③年間10枚以上	①U25:107枚、高校生以下無料316枚 ②年間15組 ③年間13枚	場所や年齢、国籍、障がいの有無等を問わず、多様な方々が音楽堂で芸術を体験できるよう、高校生以下の無料招待や割引、点字・拡大文字・白黒反転曲目リスト等の鑑賞サポートを行った。		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・主催公演における高校生以下無料招待および割引販売の利用は増加傾向にあり、それにともない若年層の来館者数も増加している。 ・アクセシビリティの向上、多様性の形成への取組として、財団内の専門部署・社会連携ポータル部門が中心的な役割を担い、アクセシビリティの向上に貢献した、県域をはじめとした他の公立文化施設などへの事例紹介を行っている。
--

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点

- (1) 令和6年度の自己評価
- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保)予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	(現状を維持していく。)	現状を維持することができた。	引き続き、多様な財源の確保に努めていく。		
(イ)	(広報・営業力)広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。	券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。	(現状を維持していく。)	現状を維持することができた。	引き続き、券売や集客、会員制度の拡充に努めていく。		
(ウ)	(他館連携)他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	公文協をはじめとした劇場ネットワークを活用しつつ、意見交換を行いながら事業運営を行っている。	(現状を維持していく。)	現状を維持することができた。	引き続き、様々な劇場ネットワークと連携した意見交換等を行っていく。		
(エ)	(設置者)円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。	設置者とは密に意思疎通を行い、各種課題に取り組んでいる	(現状を維持していく。)	現状を維持することができた。	引き続き、設置者と密な連携を行っていく。		
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督)芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	芸術監督、芸術参与を配置し、芸術面での方針について指導を受けている。	(現状を維持していく。)	現状を維持することができた。	引き続き、芸術監督、芸術参与の指導を受けていく。		
(カ)	(長期的経営)長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。	財団専務理事、劇場総支配人を中心に、経営実務者を配置している。	(現状を維持していく。)	現状を維持することができた。	引き続き、経営実務者を適所に配置していく。		
(キ)	(専門人材の確保)今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	職員採用にあたっては、専門人材の確保や育成に努めている。	(現状を維持していく。)	現状を維持することができた。	引き続き、専門人材の確保、育成に努めていく。		
(ク)	(職制の整理)芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。	職務権限規程及び事務分担表を整備して、役割を明確化している。	(現状を維持していく。)	現状を維持することができた。	引き続き、役割の明確な運営を行っていく。		
(ケ)	(世代間バランス)年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。	年齢バランスを考慮した人材確保を行っている。	(現状を維持していく。)	現状を維持することができた。	引き続き、年齢バランスに考慮した人材確保に努めていく。		
(コ)	(ジェンダーバランス)女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。	女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。	(現状を維持していく。)	現状を維持することができた。	引き続き、女性の管理職比を意識した人材計画を立てていく。		
(サ)	(ワークライフ・バランス)仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	制度を整備し、テレワークや育児休暇等、実際に運用している	(現状を維持していく。)	現状を維持することができた。	引き続き、適切な制度のもとで運用していく。		
(シ)	(コンプライアンス順守)情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。	コンプライアンス遵守を徹底し、年間を通して研修を行っている	(現状を維持していく。)	現状を維持することができた。	引き続き、コンプライアンス遵守を徹底していく。		
(ス)	(ハラスメント防止対策)職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	指針をもとに、年間を通して必要な研修を行っている	(現状を維持していく。)	現状を維持することができた。	引き続き、ハラスメント防止対策に努めていく。		
(セ)	(適正な契約事務)アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。	交わしいている	(現状を維持していく。)	現状を維持することができた。	引き続き、適正な契約を行っていく。		

4. 総評

・ 団体の自己評価

令和3年度からの5年間で、神奈川県立音楽堂が目指すミッション・ビジョンを実現するため、令和6年度は地域の中核劇場として、引き続き4つのアクションテーマに基づき事業を展開した。
＜アクション 創造に挑む＞ 【公-01】音楽堂室内オペラ・プロジェクト第7弾 開館当初からの歴史、室内楽ホールとしての優れた音響を活用した室内オペラの上演に取り組み、2024(令和6)年度は第7弾として、国内の古楽団体のなかでも近年とくに高い評価を得ている濱田芳通 & アントネッロ、兵庫県立芸術文化センターとの協働でモンテヴェルディのオペラ『オルフェオ』の上演を実現。また県下の公共施設、教育機関の協力を得て事前の関連企画を実施した。 【人-01】シリーズ「新しい視点」紅葉坂プロジェクト 時代を切り開く新しい表現の公募プログラム〈紅葉坂プロジェクト Vol.3〉の本公演と、〈紅葉坂プロジェクト Vol.4〉のワークインプログレス(公開プレゼンテーション)を実施。それぞれが、可能な限り納得するまでホール下見や舞台技術や制作のスタッフとの打ち合わせを経て演目を練り上げていく過程で、新しい企画コンセプトと舞台表現としての実現性や説得力をすり合わせて磨き上げる貴重な実体験を提供することができた。またワークインプログレスでは審査に当たった企画委員やモニター観客から、厳しさと期待、励ましに満ちたフィードバックを得ることにより、企画者側には表現者としての成長を促し、観客にも新しい表現を切り拓いていく当事者としての参加体験を提供することができた。 また制作側は、未知の表現領域の魅力をいかに一般に伝えるかという大きな課題に立ち向かう上での工夫が求められ、SNSでの多様な映像やインタビューの発信、宣伝美術の精査などを通して、事業制作者としての成長を促すことができた。
＜アクション 感動を分かち合う＞ 【公-02】音楽堂ヘリテージ・コンサート 人類の至宝(ヘリテージ)ともいえる世界的音楽家による質の高い室内楽公演を主催、共催で年間レギュラーラインアップした。企画段階から演奏家とコンタクトを取り、音楽堂オリジナルのプログラムを考案、アーティストとの協働・交流を図るとともに、音楽堂のブランドイメージを形成することに成功した。その他、年間セット券を販売することで「音楽堂にエンゲージされた」顧客を構築した。 【公-03】開館70周年記念ガラコンサート 音楽堂開館70周年を記念し、開館記念日である11月4日に音楽堂の現在を特徴づけるガラコンサートを実施した。音楽堂のこれまでの歴史を象徴する「室内楽」、「バロック音楽」そして「委嘱新作」によってプログラムを構成したほか、10月31日から11月4日を記念週間と位置づけ「アーカイブ展」「建築見学会」「ファミリーデー」の企画を実施、音楽堂の歴史を体系的に知っていただけるよう、企画内容の充実を図った。
＜アクション つねに考える＞ 【公-01】「音楽堂室内オペラ・プロジェクト第7弾」と【公-02】「音楽堂ヘリテージ・コンサート」に関連したレクチャー「街なかトークカフェ」を実施し、本公演への理解を深め、音楽芸術の魅力や楽しみと出会う機会とすることができた。
＜アクション 未来につなぐ＞ 【普-01】音楽堂クリスマス音楽会 ヘンデル「メサイア」全曲 高校生から80代まで100名以上の県民が参加する、合唱団と地元神奈川フィルハーモニー管弦楽団による2時間半に及ぶ傑作オラトリオの伝統的演奏会。コロナ禍により2023(令和5)年度まではやむを得ず合唱の人数を制限していたが、今年度より概ね制限を取り払い多くの県民が参加した。プロとアマチュアが力を合わせた音楽創造の機会を提供するとともに、県民の創造活動拠点としての音楽堂へのエンゲージメントを高めることに成功した。 【普-02】「子どもと大人の音楽堂」では、地域住民が気軽に音楽堂を訪れるワンデイイベント〈子ども編〉、20代から40代を対象とした〈大人編〉の2つの軸で、ステージ上のコンサートプログラムに加え、ホワイエでのプログラムで、総合的に「建物、場としての音楽堂の豊かさ、驚き」を体感してもらった。 〈子ども編〉では、コンサート、ホワイエでのパフォーマンスや世界の文化紹介を含む施設開放イベントを夏休みに実施し、小学生を中心に幼児から高齢者まで、地域住民の交流の場を創出した。横浜を中心とする住民の多文化化と、その中で育つ子どもたち、障がい者も含めた多様な人々が集い、音楽・芸術体験を共有できるよう「多文化共生」をテーマに掲げたプログラムに継続し取り組み、互いの存在を感じ、包括し、豊かな社会を共につくるよう働きかけた。 〈大人編〉では「これまで音楽堂の存在を知らなかった」「子ども時代以来訪れたことがなかった」20代から40代までの若い世代に対して、固定化した公立文化施設のイメージを覆すような、新しい音楽・芸術体験を提供した。 【普-03】みんなのための音楽堂 〈公開リハーサル〉では地元唯一のプロオーケストラ・神奈川フィルハーモニー管弦楽団との連携により、次代を担う子どもたちに向けて、貴重な音楽づくりの過程を公開し、音楽芸術への興味関心を喚起することで、地域に開かれ、音楽文化の振興をはかる公立文化施設としての役割を追求した。 〈子どものためのアウトリーチ〉では、県下で意欲的活動を展開している教育研究会等の協力を得て、県内全域でブロックごとに、一流の実演家、作曲家等と先生方を結びつけるワークショップを実施、神奈川県の文化芸術のハブとしての役割を果たした。特定の学校ではなく地域に働きかけていくという意図で、同地域を繰り返し訪れ、現場のニーズ、総括のヒアリングを丁寧に行うことで、発展的なアウトリーチのプログラムを5年、10年かけて構築していくことが可能となった。 【普-02】神奈川県立音楽堂&神奈川県民ホール 制作・広報インターン (人-2)「紅葉坂プロジェクト」を題材に、公演制作、広報の過程を実地で体験したほか、基礎的知識として施設の歴史と成り立ち、国内や地域における位置づけ、主催事業の企画制作手法等について、過去のプログラムや写真等の資料を用いてレクチャーを行い、公立文化施設の特性と意義について学んだ。
これらの事業に取り組み、また各評価項目において設定した指標も概ね目標値を達成できたことから、総合的に令和6年度の事業活動は当初の目標を達成できたと考える。

・ 所見

--